SOCCER TOCHIGI COMMUNICATION MAGAZINE

〒320-0834 宇都宮市陽南2-12-19 TEL 028-684-6900 / FAX 028-684-3330 URL http://www.tfa.or.jp/

発行責任者:石崎忠利



vol.78

平成23年2月1日発行

contents

- 栃木県グリーンスタジアム J2基準のスタジアムへ
- ⊘ ごあいさつ⊗ Jリーグスタジアムプロジェクト
- ⁴ 栃木ウーヴァフットボールクラブ/ヴェルフェたかはら那須⇒ 第44回関東社会人サッカー大会観戦記
- 第46回全国社会人サッカー選手権大会 in 山口▼ TFAユースサッカーリーグ栃木2009-2010 結果報告

- 平成22年度栃木県中学校総合体育大会サッカー大会
 第32回東開東少年ナッカー大会
 第32回東開東少年ナッカー大会
 高円杯全日本サッカー選手権大会(U-15)栃木県大会
- クラブユース (U-18)
- シニア委員会 各試合結果報告 とちぎキッズアカデミー/M5関東JMin栃木開催
- 種別を超えた連携 宇都宮文星女子高2年連続全国へ/藤本選手、ジェフレディース入団
- フットサル 各試合結果報告 全日本少年サッカー大会に参加して
- - 審判委員会から 第65回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技開催
 - 平成22年度中央トレセン実施/指導者養成事業
 - ② 賛助会員ご芳名



アム J2基準のスタジアムへ!!

- 収容人数 約14,600人
- ・メインスタンド 5,857席
- ・バックスタンド固定式ベンチ 4.782席
- ・照明灯の照度アップ
- ・会議室、トイレの増設により利便性向上

※ 写真は2010年12月撮影



FAIR PLAY PLEASE

ごあいさつ



社団法人 栃木県サッカー協会長 石崎 忠利明けましておめでとうございます。

昨年は、ワールドカップやアジア大会において日本中が興奮し、県内では正月早々から矢板中央高校の快進撃に心が躍り、またJ2の栃木サッカークラブやJFLの栃木ウーヴァFCの結果などに一喜一憂した年でもありました。国体予選で結果が出ないことなどもありましたが、総じて、一歩前進した年であったと思います。これもひとえに、皆様方のお陰であり感謝を申しあげます。

今年、さらに前進していくためには、課題山積ですが、一つずつ皆様と知恵を絞り、汗を流しながら、また各方面のご理解を頂きながら解決していきたいと思います。なかでも協会全員が共通認識のもと、同じ方向性を持って行くためには、各連盟、各委員会の目標が重要ですので、今年から目標を策定し取り組んでいきます。また県サッカーの競技力向上、サッカーの各種環境整備などのためには、トップチームの活躍が不可欠です。そのためにも栃木SCや栃木ウーヴァなどのホームゲームでは競技場が満員になるよう盛り上げをお願いたします。なお公益法人の見直しについては、現在、進行中です。

今年は11月に全国スポーツレクリェーション祭や関東大会も3つ開催されるなど、多忙な1年になるかと思います。どうか選手・指導者・関係者の皆様、ご健康には留意され、充実した素晴らしい年になることを願っております。より一層のご支援、ご協力をお願い申しあげ挨拶と致します。

Jリーグスタジアムプロジェクト 欧州視察に参加して…。

栃木SC 星 剛

2010年10月15日から26日までの12日間、(社)日本プロサッカーリーグ主催の「Jリーグスタジアムプロジェクト欧州視察」に参加した。参加チームは、今後ホームスタジアムを新たに建設する予定となっている5チーム(ガンバ大阪、セレッソ大阪、川崎フロンターレ、ギラヴァンツ北九州、栃木SC)と、その関連する自治体関係者やJリーグ関係者総勢20名での欧州視察であった。

訪問先は、ドイツ、スイス、イギリス、そしてスコットランドのスタジアム、計13ヶ所とバイエルンミュンへンの育成施設を視察。スケジュールは大変ハードであったが、訪問施設の管理者やチーム関係者からとても丁寧な説明をいただき、1つの

視察場所で3~4時間ほどの視察時間を要するとても内容の 濃い有意義な旅であった。

それぞれのスタジアムには個性があり、とのスタジアムも素晴らしいものであったが、共通するトピックスがあったので幾つか紹介したい。

① どのスタジアムにもスタジアム建設・運営にあたっての理念・哲学がある。



- ② スタジアムの客席すべてが屋根に覆われている。また、建設段階および運営段階で、環境に配慮がなされている。
- ③ サッカー専用のスタジアムであり、客席の傾斜が32° ~38°程度あるため、どの席からもピッチが近く感じられ、とても観戦しやすい。客席も個席。ベンチシートなし。
- ④ 利用団体 (チームや運営会社) が建設の計画段階から行政との綿密な打ち合わせがなされており、来場者目線のスタジアムとなっている。
- ⑤ チームカラー・エンブレム等が各所にセンス良く配され、クラブ、スタジアムは、地域のシンボル、地元の誇り、市民の宝、故郷という意識が強く、ホームスタジアムが自分たちの特別な場所となっている。クラブの歴史が刻まれている。
- ⑥ 障害者席の充実。(車椅子席の充実、音声解説の盲 目の方の席もある。)



- ⑦ サッカー以外の集客イベントや諸室やビジネスラウンジなどを利用し、ビジネスが行われている。
- ⑧ どのクラブもファミリーシート(ゾーン)を明確に作っており、長い歴史とともに、小さなころから自分たちのチームという意識が自然に養われている。
- ⑨ どのスタジアムにもVIPラウンジ、ビジネスラウンジがあり、一流レストランと同じ食事と雰囲気がスタジアムで味わえる。スポンサーラウンジなどではビジネスが行われており、各スポンサー企業の担当者の名刺などが専用ボックスに配置されている。



① クラブは地域コミュニティの中心。他にもいろいろと共通項はあるが、とにかくスポーツを楽しむ環境が整っていて、それが自分たちの街の誇りなのである。

「スポーツで、もっと、幸せな国へ。」とのテーマを 掲げJリーグ百年構想を実現すべく活動する私たち栃木 SC。その百年構想に参画できる喜び…。夢の舞台を演 出するスタジアム建設は、栃木のスポーツ文化を変える 大きな力となることは間違いない。

栃木県サッカー協会を中心に、サッカーファミリーが 手をつなぎ、各方面に働きかけるとともに、観光誘客並 びに国際試合が誘致できるような夢の舞台・サッカー専 用スタジアム建設の実現に向けて、皆でベクトルを合わ せませんか。国際観光都市として恥ずかしくないレベル に栃木のスポーツ環境や スポーツ文化のレベルアップ を図りませんか。百年後のとちぎの子どもたちの笑顔の ために…。



栃木ウーヴァフットボールクラブ

日立栃木サッカー部の 創部 (1947年) から63年目の歴史的瞬間

三 関 隆

栃木ウーヴァフットボールクラブは、日立アプライアンス株式会社(現)を母体とした企業チームの日立栃木サッカー部として発足した。1947年の創部から63年目の2010年3月14日、日本フットボールリーグ(以下JFLと言う)の開幕を迎えることになりました。このステージに来るまでには、県協会を始め、サッカー関係者の皆様からチーム活動へのご理解、ご指導、ご声援を頂き、誠実にサッカーが好きで取り組んできたチーム関係者のお陰だと深く感謝申し上げます。



さて、私が入部したのは、1990年、当時のチームは県2部リーク に所属していました。

そこから、1992年に県1部リーゲ昇格、2003年に関東2部リーゲ 昇格、2007年に関東リーゲ1部昇格、2009年12月7日に全国地域 サッカー大会にて準優勝、見事JFL昇格を果たしました。私も選 手引退後、コーチ、監督、総監督とチームに携わり19年間を過 ごしてきましたのでチームへの思い入れが強く、去る3月14日 のJFL開幕戦、ユアテックスジアム仙台に入場する選手の姿に 感動したことを昨日のことの様に思い出します。

また、ホームゲームの初戦で残したサポータの「名言」が耳か ら離れません。紹介します。JFL元年はもう2度とやってきませ ん。2度とやってこないなら、誰もが納得のいく充実したJFL元 年を送ろうではありませんか?そしてそれは、来年の夢の実現 に向けた、大事な大事な1歩を踏み出すことにつながります。そ の1歩1歩の積み重ねが、「J」という夢を、私たちの愛する街「栃 木」にもたらしてくれると考えています!一緒に頑張りましょう。 再び感動しました。今年の私は、ボランテアの記録員として、栃 木ウーヴァFCの試合を見に行くたびに、この言葉を思い出し て、応援をしてきました。私が考えることは、J1・J2と比べると観 客も静かで、スタジアムも地味だったJFLに、地域リーグから昇 格した栃木ウーヴァFCが、どれだけ「JFLでの旋風、栃木県サ ッカー界での旋風、栃木市での旋風」を巻き起こすことが出来 たのか。私個人的に結論付けるのもどうかと思いますが、私は 十分に「栃木ウーヴァFCがJFLに挑戦することで、何か教えて あげることができた」と感じています。プロ契約選手や環境・施



設が十分でない、アマチュアのチームであっても、栃木市を中 心とした県南地区のスポーツ発展させる、地域貢献、子供達に 夢を伝えることが出来たのではないかと思います。そして熱心 な約800人近いサポーターが、栃木市総合運動公園陸上競技 場、足利市総合運動公園陸上競技場に駆けつけているという こと。チームを栃木市民および県南の小山市、佐野市、足利 市、そして県各地のサポーターが支えていて、その誰もが「夢・ 希望・感動、そしてJリーグチームへ」を心待ちにしている。その 情熱を、熱意を、JFLの17チームとの対戦を通じて「表現」する ことが出来たと考えています。残念ながら、今シーズンの「残留 争いの15位」と現実は厳しい状況となりました。しかし、栃木 ウーヴァFCは、まだまだ発展途上です。チームとして成熟して ゆくことが必要だと思います。それは単にサッカーのレベルとい うだけではなく、支援体制や地域の盛り上がり、行政の支援、そ してサポーターの数。まだ、伸びしろはあります。これからどんど ん勢いを増してゆくチーム、そして全国に名をはせる力を秘め ているチーム、それが栃木ウーヴァFCだと考えています。皆様 のご声援を宜しくお願いします。

ヴェルフェたかはら那須

ヴェルフェたかはら那須 稲若 健志

2010年度のヴェルフェたかはら那須トップチームの目標として 掲げていたのが、(1)関東リーグ1部優勝、(2)天皇杯本大会出 場、(3)JFL昇格でした。今シーズンを振り返ってみると、結果 は、関東1部リーグが4位で終了し、天皇杯の出場権を決める栃 木トヨタカップでは惜しくも決勝で栃木ウーヴァFCに接戦の上 3-4で敗れてしまいました。今年の唯一の収穫としては、10月 に行われた全国社会人大会に出場できたことです。1回戦はマ ルヤス工業に1-0で勝利し2回戦では惜しくも福島ユナイテッド に0-1で敗れてしまいました。本当は全国社会人大会で優勝 し、JFLの昇格を懸けて行われる全国地域リーグ決勝大会に出 場したかったのですが、残念な結果に終わりました。

1シーズンを終えて感じた事は、やはりチームが色々な意味で更に成長しない限りJFL昇格というハードルを乗り越えられないと実感させられました。

来シーズンは今シーズンよりも、さらに良い成績を収める事ができるよう選手・スタッフー丸となって取り組んでいくつもりです。 また、ヴェルフェたかはら那須ジュニアの方は、今年は県大会で





また、ヴェルフェたかはら那須ジュニアの方は、今年は県大会で3位という成績を収める事ができました。

選手達も憧れのグリーンスタジアムでプレーでき、惜しくもアネーロに3-0で敗れ、悔し涙を流しましたが、選手達には、良い経験になったはずです。

来年は今年の借りを返すべく優勝という二文字に向かって走り続けます。

来年もまたヴェルフェたかはら那須の応援をよろしくお願い 致します。

第44回関東社会人サッカー大会観戦記

社会人サッカー連盟 理事 鈴木篤

第44回関東社会人サッカー大会(開催地:東京) 会場:大井第二球技場(人工芝) 2010/11/6 10:30キックオフ

宇都宮フットボールクラブ(栃木1位 県リーグ成績:11勝2分1敗) VS

セボジータス(埼玉4位 県リーグ成績: 7勝4分5)

宇都宮FCは県リーグ最終節を待たずして優勝を決めて第1 代表の座をつかんだこともあり、関東大会での勝利を期待しな がら観戦をした。ここ数年関東大会では東京、埼玉、神奈川が 抜きん出ている感があり栃木のレベルがどの程度にあるかを見 るのにもよい対戦カードとなった。

前半立ち上がりは攻め急ぐことなく安定した守備からカウンターを中心に攻撃、時間の経過ともにポゼッション率が上がり攻撃の時間が増えてきてペースをつかんでいった。だが15分に中盤でボールを奪われると右サイド→中央→左サイドと崩される、中央へのクロスをGK小林が弾くもこぼれたところを相手選手に拾われシュートを許し先制されてしまった。続く31分にもカウンターから右サイド→中央へ突破されDFのマークのずれからフリーでシュートされ2失点目を喫してしまう。

しかし県リーグで何度も逆転勝利を演じてきた宇都宮FCは 慌てることなく反撃を開始、俊足FWの高橋を中心にスペースを 突く攻撃を展開しやや引き気味になった相手を崩しに入る。そ して44分にMF笠野が右サイドを突破し中央へクロス、一度は 跳ね返されるもすかさず奪い返し再度中央へ、FW深谷がミドル レンジであったが思い切りよく右足を振りぬきボレーシュートを 決めてゴールを奪った。

続く46分フリーキックの流れから左サイド→中央の高橋から 深谷と縦への突破で崩しそのまま深谷が2点目を決めて試合を 振り出しに戻した。

前半のロスタイムで同点とし試合の流れを一気に引き戻す形で後半を迎えることとなった。

後半の立ち上がりは宇都宮FCが流れをつかんだまま試合を展開する。集中したプレスからボールを奪い何度も相手ゴールを脅かすも得点には至らない。時間の経過とともに一進一退の攻防となった。73分にセボジータスはペナルティーアークのあたりからミドルシュートを放つ、宇都宮のDFが弾くも運悪く右サイドのフリーの相手選手にボールが渡ってしまう。対応が遅れたDFはボールウオッチャーとなってしまいマークのズレが生じてしまう。そして中央へクロスからゴールを奪われてしまった。ここまで守備は集中が続いてだけに悔いが残る対応であった。

その後は引いて守る相手に対し果敢にゴールを狙いに行く も、最後までこじ開けることはできずタイムアップを迎えることと なった。

両チームとも選手のコンディションが良く、攻守の切替えも非常に早い好ゲームであったが得点の仕方に両者の違いが出ていた様に思える。やや個の力もあって得点した宇都宮FCに対してセボジータスはショートカウンターの際に攻撃の数的有利の状況を作って得点していた(いずれの失点もフリーでシュートを打たれていた)。同じように切替えが早いように見えてもそこにかかわる人数の違いがセボジータスのレベルが上であった。

これには予選となる県リーグのレベル差が現れているのではないだろうか。チームとしての技術、走力そして戦術を要求されるリーグを戦ってこそ身につく力のように感じた。

今後関東大会で勝ち抜くチームを作るには県リーグ全体の底上げを図り、その中でトップの1部リーグのレベルアップが必要であると思われる。また各チームにおいては県内のJFL・関東リーグ所属チームや県外チームとのトレーニングマッチを増やすことも必要であり、社会人連盟としてもそのような機会を設けていく重要性を感じた。



44分 深谷(中央白)が鮮やかなボレーシュートを決める



第46回全国社会人サッカー選手権大会 in山口

社会人連盟 理事 川端宏之

本大会は「おいでませ!山口国体」のサッカー競技リハーサ ル大会として10月16日から決勝まで進むと5連戦という全国的 にも稀にみる大会である。ただし、来年開催される国体の会場 を使うので、ピッチを始め運営スタッフやボランティアなど試合 をするうえでの環境は申し分ない大会である。

7月に行われた関東予選をPK戦の末、勝ち上がり出場権を 得たヴェルフェたかはら那須は全国大会に向けて万全の準備 をしていた。

偶然、宿泊ホテルが一緒であり前日の夕方に選手やスタッフ たちとバッタリご対面、駐車場で練習場を探しながら移動の疲 れも見せず、それぞれウォーミングアップをしながら談笑してい たのを見て明日の試合は・・・

大会初日、会場に着くと地域決勝大会に「飛び級」で進出し ようとするチームのサポーターでいっぱいであった。

ヴェルフェたかはら那須の初戦は東海地区代表のマルヤス 工業サッカー部、後半開始直後に先制点を挙げて途中押され る部分もあったがなんとか逃げ切って勝利。



とても大きいトーナメント表

翌日、連戦なのでベテラン選手の体力の回復が気になって いたがみんな元気にアップをしていた。対戦相手はJを目指す 福島ユナイテッド。

Jリーグ経験者も揃えているチームだけあって主導権を握ら れる時間も長く、苦しい前半をなんとか抑えていたが前半終了 間際に失点、後半はヴェルフェのほうが走り勝っていたが得点 をとれずに敗退。





今年張り替えたばかりの天然芝のピッチ

残念な結果ではあったが、選手の皆さん、トレーナーもいな い少ない人数でがんばったチームスタッフ、そして何より夜中に 車で横断幕を積んで応援に来たサポーターの皆さん大変お疲 れさまでした。

TFAユースサッカーリーグ栃木2009-2010 結果報告

1部リーグ結果

, HIS	_		111/1	_	_			_			_		_	_		_	_
	期	栃木SC ユース	宇都宮白楊	真岡	白鴎 足利	小山南	宇短大 附属	益子 芳星	栃木	勝	負	引	勝点	得失 差	総得点	総 失点	順位
栃木SC	前		2 ● 3	403	900	400	1 △ 1	0 0 0	200	10	1	3	33	43	52	9	
ユース	後		500	1 △ 1	800	500	501	300	300	10		3	33	43	52	9	2
宇都宮	前	302		2 △ 2	602	301	1 • 2	1 △ 1	501		3			4.0			
白楊	後	0 • 5		0 • 2	100	301	0 0 0	400	300	8	3	3	27	13	32	19	3
-t- m	前	3 ● 4	2 △ 2		704	400	500	200	200	10	1	3	33	45	59	14	1
真岡	後	1 △ 1	200		401	600	1 △ 1	1100	901	10		3	33	45	59	14	
白鴎	前	0 • 9	2 ● 6	4 ● 7		0 • 1	0 • 4	2 △ 2	400	4	9	1	13	-31	17	48	7
足利	後	0 • 8	0 • 1	1 • 4		201	0 • 5	100	100	4	9	'	13	-31	17	48	'
小山南	前	0 • 4	1 • 3	0 • 4	100		301	100	300	6	7	0	18	-11	19	30	4
小山用	後	0 • 5	1 • 3	0 • 6	1 • 2			401	401	ь		U	18	-11	19	30	4
宇短大	前	1 ∆ 1	201	0 • 5	400	1 • 3		2△2	0 • 3	4	5	4	16	-3	22	25	5
附属	後	1 • 5	0 0 0	1 △ 1	500			1 • 3	401	4	5	4	10	-3	22	20	3
益子	前	0Δ0	1 △ 1	0 • 2	2 △ 2	0 • 1	2 △ 2		200	3	7	4	13	-20	15	35	6
芳星	後	0 • 3	0 • 4	0 •11	0 • 1	1 • 4	301		403	٥	′	4	13	-20	15	35	O
+=+	前	0 • 2	1 • 5	0 • 2	0 • 4	0 • 3	300	002		1	13	0	3	-36	10	48	8
栃木	後	0 • 3	0 • 3	1 • 9	0 • 1	1 • 4	1 • 4	3 ● 4		<u>'</u>	13	U	3	-30	10	48	ð

※以上の結果より、JFAプリンスリーグ関東2011・2部に「真岡高校」参入決定!

JFAプリンスリーグ関東2011

高校サッカー部とクラブユースチームが同じ舞台で戦う大会

現在、栃木県から「矢板中央高校」「佐野日本大学高校」が参戦している。

関東2010 リーグ結果 佐野日本大学高校 : 8位 矢板中央高校 · Q份

上記の結果から、次回のプリンスリーグ残留となる。

さらに、次回のプリンスリーグ関東に「真岡高校」が参戦し、栃木県から3校 が参加することとなった。

2部リーグ結果(Aグループ)

	期	さくら 清修	大田原	佐野 松陽	宇都宮東	小山西	黒磯	宇都宮 白楊B	今市 工業	勝	負	引	勝点	得失 差	総 得点	総 失点	順位
さくら	前		100	0 • 2	501	201	200	0 • 2	300	10	4	0	30	15	30	15	2
清修	後	$ \ \ $	200	● 2	401	200	502	201	1 • 2	10	4	0	30	15	30	15	~
+ m K	前	0 • 1		301	0 0 0	0 • 1	100	1 • 2	201	6	5	_	0.1	3	15	10	4
大田原	後	0 • 2		1 △ 1	301	0 0 0	200	0 • 2	200	٥	5	3	21	٥	15	12	4
佐野	前	2 • 0	1 • 3		0 • 4	0 • 2	300	2 • 4	1 • 2	6	7	1	10	2	20		5
松陽	後	201	1 △ 1		501	2 ● 3	803	201	1 ● 3	О		'	19	2	30	28	5
宇都宮	前	1 • 5	0 🛆 0	400		1 △ 1	300	1 • 2	200	5	6	3	18	-5	20	25	6
東	後	1 • 4	1 • 3	1 • 5		1 △ 1	100	2 • 4	100	3	0	٥	10	-5	20	20	0
at a target	前	1 • 2	100	200	1 △ 1		200	2 ● 3	302	7	4	3	24	7	22	15	3
小山西	後	1 • 2	0 0 0	302	1 △ 1		300	1 • 2	100		4	3	24		22	15	3
EE Tek	前	0 • 2	0 • 1	0 • 3	0 • 3	0 • 2		1 • 2	2 △ 2	1	12	1	4	-30	9	39	8
黒磯	後	2 • 5	0 • 2	3 ● 8	0 • 1	0 • 3		0 • 5	100		12		4	-30	9	งข	ľ
宇都宮	前	200	201	402	201	302	201		302	12	2	0	36	18	34	16	1
白楊B	後	1 • 2	200	1 • 2	402	201	500		100	12	2	0	30	18	34	10	ļ '
今市	前	0 • 3	1 • 2	201	0 • 2	2 ● 3	2 △ 2	2 ● 3		3	10	1	10	10	.,	0.4	7
工業	7 112	201	0 • 2	301	0 • 1	0 • 1	0 • 1	0 • 1		3	10		10	-10	14	24	<i>'</i>

※大会規定により順位変動。1位 さくら清修、2位小山西。



2部リーグ結果(Bグループ)

- 111	-	-		· — /	,-	- /											
	期	國學院 栃木	矢板	小山	文星 芸大附	今市 アルシオーネ	宇都宮北	矢板 中央B	佐野 日大B	勝	負	引	勝点	得失 差	総得点	総 失点	順位
國學院	前		401	300	200	300	1 • 3	0 •13	3 ● 1		5		25	6	0.5	29	3
栃木	後		501	2 △ 2	3 () 1	702	0 • 1	1 • 2	1 • 2	8	5	1	25	ь	35	29	3
矢板	前	1 • 4		0 • 2	201	1 • 4	0 • 2	1 ● 3	0 • 2	2	10	2	30	-34	13	47	7
大似	後	1 • 5		2 △ 2	1 • 7	0 • 4	403	0 0 0	0 • 8	2	10	2	8	-34	13	47	/
di ele	前	0 • 3	200		100	700	100	2 △ 2	0 0 0	4	4	6	18	-3	18	21	5
小山	後	2 △ 2	2 △ 2		0 • 1	1 △ 1	0 • 2	0 0 0	0 ● 8	4	4	0	18	-3	18	21	5
文星	前	0 • 2	1 • 2	0 • 1		100	201	403	0 • 4	7	6	_	22	3	23	20	4
芸大附	後	1 • 3	701	100		200	300	0 • 2	1 △ 1		Ö	'	22	3	23	20	4
今市	前	0 • 4	401	0 • 7	0 • 1		1 • 2	0 • 7	0 • 4	2	11	4	7	-30	13	43	8
アルシオーネ	後	2 • 7	400	1 △ 1	0 • 2		1 • 3	0 • 1	0 • 3		-		′	-30	13	42	٥
宇都宮	前	301	200	0 • 1	1 • 2	201		0 • 1	0 • 1	6	8	0	18	-4	19	23	6
北	後	100	3 ● 4	200	0 • 3	301		0 ● 5	2 ● 3	0	٥		10	-4	18	23	0
矢板	前	1300	3 () 1	2 △ 2	3 ● 4	700	100		401	10	1	3	33	36	47	11	1
中央B	後	201	0Δ0	0 0 0	200	100	500		402	10			00	50	4/	''	Ľ.
佐野	前	1 • 3	200	0 4 0	400	400	100	1 • 4		9	3	2	29	25	40	15	2
日大B	後	201	800	800	1 △ 1	300	302	2 • 4		٥	٥		29	20	40	10	

1部昇格決勝トーナメント結果

上記の結果をもとに、次回のリーグ戦(1部リーグ)のための昇格戦を実施。 各グループ1位・2位が対決し、昇格チームを決める。



以上の結果より、TFAユースサッカーリーグ栃木2010-2011 1部リーグに参戦決定!!

- ・さくら清修高校
- ·矢板中央高校B

3部リーグ結果(Aグループ)

吉田口	٠	後期より参入のため、	前期の記録なり

	期	那須清峰	高根沢	宇都宮 B	烏山	那須 拓陽	宇都宮 工業B	矢板 中央C	真岡B	勝	負	31	勝点	得失 差	総得点	総失点	順位
那須	前		1 ● 6	100	401	301	0 • 1	0 • 4		7	5	1		Γ,			
清峰	後		3 () 1	0 0 0	403	100	400	0 • 5	1 • 2	l ′	5	1	22	-2	22	24	2
高根沢	前	601		501	400	400	0 • 1	1 ● 5		7	6	0	21	2	34	32	3
同恨八	後	1 • 3		1 • 4	503	201	501	0 • 8	0 • 4	l ′	٥	U	21	2	34	32	3
宇都宮	前	0 • 1	1 • 5		1 ● 5	200	2 △ 2	2 △ 2			5		12	-6		22	7
В	後	0 4 0	401		1 • 2	1 △ 1	1 △ 1	0 • 1	1 △ 1	2	5	6	12	-6	16	22	/
ė.i.	前	1 • 4	0 • 4	501		402	0 • 4	1 ● 3		5	8	0	15	-13	24	37	6
烏山	後	3 ● 4	3 ● 5	201		200	300	0 • 6	0 • 3	5	8	U	15	-13	24	3/	О
那須	前	1 • 3	0 • 4	0 • 2	2 ● 4		0 • 5	800		1	11	1	4	-22	16	38	8
拓陽	後	0 • 1	1 • 2	1 △ 1	0 • 2		1 • 3	1 ● 6	1 • 5	l '	''	'	4	-22	10	38	8
宇都宮	前	100	100	2△2	400	500		1 • 4		5	6	2	17	-9	20	29	
工業B	後	0 • 4	1 • 5	1 △ 1	0 • 3	301	\	1 ● 5	0 • 4	5	٥	2	17	-9	20	29	4
矢板	前	400	501	2△2	301	0 • 8	401			11	1	1	34	36	51	15	1
中央C	後	500	800	100	600	601	501		200	l ''	'	'	34	30	וטן	19	'
= = -	前									5	1	_	16	14	19	5	5
真岡B	後	201	400	1 △ 1	300	501	400	0 • 2	1 \	ာ	'	'	16	14	19	2	5

3部リーグ結果(Bグループ)

#F# D	・谷田トの会えのため	益期の司得方し

- 1-1	THE PROPERTY OF THE PROPERTY O																
	期	鹿沼東	宇都宮 工業	作新 学院	上三川	茂木	宇都宮商業	那須 清峰B	栃木B	勝	負	引	勝点	得失 差	総 得点	総 失点	順位
鹿沼東	前		0 • 6	0 • 15	1 • 4	0 • 5	0 • 2	0 • 4					_	40	45	55	8
庭冶米	後		2 ● 3	2 △ 2	1 • 4	2 • 4	2 △ 2	502	0 • 2	1	10	2	5	-40	15	55	8
宇都宮	前	600		0 ●15	401	2 △ 2	0 • 2	201		8	3	2	26	0	26	26	2
工業	後	302		100	1 △ 1	0 • 2	100	400	200	8	3	2	20	U	20	20	2
作新	前	1500	1500		402	1 • 2	200	1500		8	3	2	26	50	61	11	1
学院	後	2 △ 2	0 • 1		1 △ 1	200	0 • 1	201	201	8	3	2	20	50	01	"	
上三川	前	401	1 • 4	2 • 4		3 () 1	1 △ 1	201		5	5	3	18	1	29	28	5
	後	401	1 △ 1	1 △ 1		2 • 4	2 • 4	502	103	5	5	٥	18	'	29	28	5
茂木	前	500	2 △ 2	201	1 • 3		0 4 0	500		7	3	3	24	12	31	19	3
2271	後	402	200	0 • 2	402		1 △ 1	503	0 • 3	′	3	3	24	12	31	19	٥
宇都宮	前	200	200	0 • 2	1 △ 1	0 4 0		0 0 0		6	2	5	23	10	21	11	4
商業	後	2 △ 2	0 • 1	100	402	1 △ 1		401	401	0		5	23	10	21		4
那須	前	400	1 • 2	0 ●15	1 ● 2	0 • 5	0 0 0			2	10	1	7	-32	18	50	7
清峰B	後	2 ● 5	0 ● 4	1 • 2	2 ● 5	3 ● 5	1 • 4		3 () 1	_	10	Ľ	′	32	10	30	
栃木B	前								\setminus	0	4	0	9	-1	11	12	6
1007110	後	200	0 • 2	1 • 2	3 () 1	300	1 • 4	1 ● 3		3	4		9	'	"	12	Ů

3部リーグ結果(Cグループ)

日光明峰:後期より参入のため、前期の記録なし

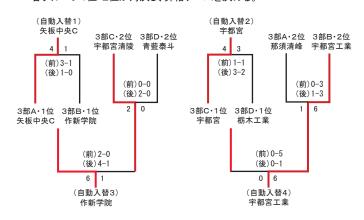
	期	今市	宇都宮 清陵	鹿沼	宇都宮	石橋	宇都宮南	栃木 翔南	日光 明峰	勝	負	31	勝点	得失 差	総 得点	総 失点	順位
^+	前		0 • 2	1 • 2	1 • 3	2 ● 3	0 • 2	2 △ 2		3	8			4.0		0.5	5
今市	後		0 • 3	201	2 ● 7	2 ● 7	200	601	2 △ 2	3	8	2	11	-13	22	35	5
宇都宮	前	200		200	100	201	200	401		11	2	0	33	24	31	7	2
清陵	後	300		402	0 • 1	0 • 2	200	400	500	-		U	33	24	31	′	
鹿沼	前	201	0 • 2		1 △ 1	1 • 2	0 • 1	300		5	6	2	17	7	21	14	4
庭沿	後	1 • 2	2 • 4		0 • 1	0 4 0	100	500	500	5	0		17	Ľ	21	14	4
宇都宮	前	301	0 • 1	1 ∆ 1		200	201	3 () 1		11	1	1	34	28	37	9	1
工机口	後	702	100	100		3 () 1	601	300	500	-			34	20	3/	9	'
石橋	前	302	1 • 2	201	0 • 2		400	0 • 1		8	4	1	25	17	30	13	3
1⊒ 1m	後	702	200	0 4 0	1 • 3		200	300	500	0	4		20	17	30	13	3
宇都宮	前	200	0 • 2	100	1 • 2	0 • 4		1 △ 1		3	9	1	10	-15	11	26	7
南	後	0 • 2	0 • 2	0 • 1	1 • 6	0 • 2		1 • 2	402	,	9		10	-13	"	20	′
栃木	前	2 △ 2	1 ● 4	0 ● 3	1 ● 3	100	1 △ 1			3	8	2	11	-24	11	35	6
翔南	後	1 ● 6	0 • 4	0 • 5	0 • 3	0 • 3	201		200	3	٥	_	''	24	''	55	J
日光	前								\setminus	0	6	1	1	-24	4	28	8
明峰	後	2 △ 2	0 • 5	0 • 5	0 • 5	0 • 5	2 • 4	0 • 2		J	J		'	24	+	20	J

3部リーグ結果(Dグループ)

	期	足利	栃木 工業	小山南 B	青藍 泰斗	足利清風	佐野	足利工業	足工大 附属	勝	負	引	勝点	得失 差	総得点	総 失点	順位
D 50	前		0 • 3	0 • 1	1 • 3	300	0 • 3	201	100				40	Ţ.			Ę
足利	後		3 ● 2	1 • 2	1 • 2	300	400	1 • 5	0 • 2	6	8	0	18	-4	20	24	5
栃木	前	300		1 △ 1	300	600	400	500	600	10	1	_	0.7	40		10	
工業	後	2 ● 3		3 () 1	201	600	402	401	401	12	'	1	37	43	53	10	1
小山南	前	100	1 ∆ 1		200	401	0 • 1	201	400	9	4	1	28	13	31	18	3
В	後	201	1 • 3		0 • 3	500	402	500	0 • 5	9	4	'	28	13	31	18	3
青藍	前	301	0 • 3	0 • 2		2 △ 2	200	1 • 7	300	9	4	1	28	14	36	22	2
泰斗	後	201	1 • 2	300		500	702	3 () 1	401	9	4	<u>'</u>	20	14	30	22	_
足利	前	0 • 3	0 • 6	1 • 4	2 △ 2		100	1 • 6	302	4	9	1	13	-36	12	48	7
清風	後	0 • 3	0 • 6	0 ● 5	0 ● 5		201	201	0 ● 4	4	0	Ľ	13	30	12	40	<i>'</i>
佐野	前	300	0 • 4	100	0 • 2	0 • 1		1 • 2	601	3	11	0	9	-19	18	37	8
KEET	後	0 • 4	2 ● 4	2 ● 4	2 ● 7	1 • 2		0 ● 3	0 • 3	٥	-	Ů	9	10	10	37	٥
足利	前	1 • 2	0 • 5	1 • 2	701	601	201		501	6	7	1	19	5	35	30	4
工業	後	501	1 • 4	0 ● 5	1 • 3	1 • 2	300		2 △ 2		Ľ	Ľ	19	Ĺ	55	30	4
足工大	前	0 • 1	0 ● 6	0 • 4	0 • 3	2 ● 3	1 ● 6	1 ● 5		4	9	1	13	-16	22	38	6
附属	後	200	1 • 4	500	1 ● 4	400	300	2 △ 2		Ĺ		Ľ	10	10		00	ű

2部昇格決勝トーナメント結果

上記の結果をもとに、次回のリーグ戦(2部リーグ)のための昇格戦を実施。 各グループ1位・2位が対決し、昇格チームを決める。



以上の結果より、TFAユースサッカーリーグ栃木2010-2011 2部リーグに 参戦決定!!

- ·矢板中央高校C
- •宇都宮高校
- •作新学院高校
- •宇都宮工業高校

FAIR PLAY PLEASE

高円宮杯TFAユースサッカーリーグU-17 栃木2010-2011 参加チーム

2010年12月~実施

(順不同)

1部リーグ(8チーム)

- ・栃木SCユース
- 益子芳星高校
- 宇都宮白楊高校
- 白鴎足利高校
- 小山南高校
- ・さくら清修高校
- 宇短大附属高校
- · 矢板中央高校 B

2部リーグ(16チーム)

- 栃木高校
- ・宇都宮東高校
- 大田原高校
- 小山西高校
- 佐野松陽高校
- 宇都宮白楊高校 B
- 今市工業高校
- 宇都宮工業高校

- 國學院栃木高校
- 矢板中央高校 C
- 小山高校
- 宇都宮高校
- 宇都宮北高校
- 文星芸大附属高校
- 作新学院高校
- · 佐野日本大学高校 B

3部リーグ(29チーム)

- · 宇都宮高校 B
- 馬頭高校
- · 宇都宮工業高校 B
- 高根沢高校
- 那須清峰高校
- 矢板東高校
- 黒磯高校
- 上三川高校
- 真岡高校B
- ·栃木高校B
- 鹿沼高校
- 鹿沼東高校
- 宇都宮商業高校
- 今市アルシオーネ
- 茂木高校

- ·小山南高校B
- 栃木工業高校
- 宇都宮南高校
- 真岡工業高校
- 青藍泰斗高校
- 佐野高校
- 石橋高校
- 今市高校
- 栃木翔南高校
- 足利高校
- 足利南高校
- 足利工業高校
- 足利清風高校
- 足利工業大学附属高校

平成22年度 栃木県中学校 総合体育大会サッカー大会

7月28日から31日の4日間にわたり、中学連盟の大会では、最大の栃木県総体が行われました。 各地区を勝ち抜いた34校が猛暑の中、熱戦を繰り広げました。

決勝は、県春季大会優勝の今市中と同大会第3位の矢板中になりました。白熱する攻防を繰り広げ、後半に均衡を破ったのは、矢板中でした。その1点が決勝点になり、県春季大会の雪辱を果たし、矢板中が初優勝をしました。



待望の先制点を決めて喜ぶ矢板中



初優勝を果たした矢板中イレブン

県総体を勝ち抜いた矢板中と今市中は、栃木県の 代表として、8月6日から9日に茨城県水戸市で行 われた関東中学校サッカー大会に出場しました。

栃木県代表の矢板中と今市中は、両校とも初戦で 惜しくも敗退してしまいました。

第34回全日本少年サッカー大会 栃木県大会

6月5日から6月19日までの4日間にわたり、全国大会の切符をかけ熱戦が繰り広げられました。

開会式に続いて、記念イベントが行われました。リフティング大会や1対1の決戦、ミニゲームなどが行われ、選手たちは自分の力を精一杯出し、がんばっていました。



大会は、FCアネーロ宇都宮対足利トレヴィータFCの決勝戦となりました。1点を争う好ゲームとなりましたが、後半に2点を奪ったFCアネーロ宇都宮が優勝し、全国大会への切符を手にしました。FCアネーロ宇都宮は全国大会でもベスト8に進出し、大活躍しました。



<優勝のFCアネーロ宇都宮>

準優勝の足利トレヴィータFCと3位のともぞう SC、リフレSCが関東少年サッカー大会に出場しました。



<準優勝の足利トレヴィータFC>



<第3位のともぞうSC>



<第3位のリフレSC>



第32回東関東少年サッカー大会

8月28日(土)29日(日)、真岡市の鬼 怒自然公園にて、栃木県、千葉県、茨城県の3 県の間で行う東関東大会がありました。4・5 ・6年の部に分かれ、総勢24チームが自分の 県の誇りをかけて戦いました。栃木県は県選抜 チームと各地区トレセンチームが参加しました。 5年生の部で両毛トレセンが、4年生の部で宇 河トレセンが優勝しました。



第39回栃木県少年サッカー 選手権大会

10月24日から11月3日の4日間にわた り、県内少年サッカー最大規模である栃木県少 年サッカー選手権大会が行われました。2日目 は天候に恵まれず、暴風雨の中の激戦となりま した。

選手権の部は178チーム、ジュニアの部は 地区予選を勝ち上がった64チームが出場しま した。

選手権の部は、全日本大会を制したFCア ネーロ宇都宮対昨年度優勝の栃木SCジュニア の決勝戦となりました。前半を2対2で折り返 し、熱戦を繰り広げましたが、自力に勝るFC アネーロ宇都宮が後半に3点をもぎ取り、優勝 の栄冠を手にしました。3位は、リフレSC、 ヴェルフェ那須U-12でした。

ジュニアの部は、ブロック別トーナメントを行 い、ともぞうSC、AS栃木ジュニアが優勝しま



<優勝のFCアネーロ宇都宮>



<準優勝の栃木SCジュニア>



<ジュニアの部優勝のともぞうSC>



<ジュニアの部優勝のAS栃木ジュニア>

高円杯全日本サッカー選手権 大会(U-15)栃木県大会

チーム名	ヴェルディ	栃S	足利	スポルト	勝点	勝	負	分	得点	失点	得失点	順位
ヴェルディ SS小山		× 1–2	△ 1–1	O 5-2	4	1	1	1	7	5	2	2
栃木 SC	O 2-1		O 2-0	O 4-1	9	3	0	0	8	2	6	1
足利 UTD	△ 1–1	× 0-2		△ 0-0	2	0	1	2	1	3	-2	3
FC スポルト	× 2-5	× 1–4	△ 0-0		1	0	2	1	3	9	-6	4



第一代表 栃木SCジュニアユース

栃木SC 嘉悦監督

高円宮杯予選を振り返る。夏のクラブユース関東大会での初戦敗退。この敗戦を反省し、個人・チームとしての課題をみつけ夏以降フィジカル強化、さらに守備に重点を置きトレーングしてきた。特に守備に関して掲げ日々は一つ、組織的な守りをテーマとして掲げるといる。そして高円宮杯県予選ではは、そのできた。夏以降のトレーニングが実を結んだのだろう。関東大会でも相手に膨することなく戦うことができた。代表決定戦で敗れはしたが、選手はよく頑張っていた。選手とともに成長した1年であった。



第二代表 ヴェルディSS小山

コーチ 河崎 朋視

関東を主として戦って来たシーズンの最後の大会として挑んだ今大会。スピード感のある攻撃を活かすため、ボールを奪ってから早くフロントサイドに進むことをコンセプトに戦った。予選リーグは無事に突破したが、納得のいくゲームは出来ず、力の差がほとんど無いことを確認した。決勝リーグでは苦しみながらも一勝一分けで最終節の栃木SC戦を迎えたが力及ばず優勝は逃してしまった。決定的機会をしっかりと決め試合の流れを掴むことの大切さを再認識する大会となった。



第三代表 足利・両毛ユナイテッドFC

監督 糸井 悦夫

年々、県予選においては各チームが、対戦相手の分析とを踏まえ、チーム戦術を変化させながら戦う試合が多くなってきました。さらに勝負へのこだわりを強く感じさせてくれる場面も例年以上に多く観られました。また、関東大会においても戦う姿勢が強く観られ、下級生たちへの手本を示すプレーが多くなった感があります。更に、この年代で如何に判断あるプレーができるかが、重要課題である事も感じ取れました。



クラブユース (U-18)



栃木SCユース

監督:町田 秀三

栃木SCユースはクラブの 理念である、「プロのトップチームで活躍できる」、「多年 を輩出すること」、「サッカーを通して魅力あると」を カーを通して魅力あると」を 目標に掲げ、人間教育を 調として活動しています。



今年のチームは強豪チームに比べ、テクニック・体の大きさで劣る分メンタル面での強化・運動量の向上を目指しトレーニングに励みました。結果として少しずつではありますが差を縮められたのではないかと思います。

いかなる窮地、困難な状況であっても相手に負けないと思う強いメンタリティーを持つこと。また、最後まであきらめない気持ちを全面に出して闘い抜く姿勢こそがサッカルなくしては個人としてもチームとしても向上は望めません。そういった意味を踏まえてきませんでしたが、選手一人ひとりが大事にしながればいけないことの基盤を築き、今後につながる試合ができたと自負しております。

今後もこのベースを大切にし、魅力あるチームづくりに努め、クラブの理念を基調に「闘う」という信念を貫く中で、胸を張って栃木県を代表できるようなチーム、選手の育成に力を注いでいきたいと思います。



今市FCアルシオーネユース

監督:入江 智宏 2000年設立当初、我が今市FCアルシオーネは、同U-15から始まり、小学生から大学生・社会人・シニアまでのカテゴリーで組織され、「自ら考えて行動が出来る選手」「個性のある選手」「個人技術の高い選手」を強く意識し、「勇敢な雑草集団:BraveHeart」で果敢に試合に臨んできました。

2007年からU-18のカテゴリーが加わり、同クラブの生え抜きクラブ員のみならず、中体連で活動してきた選手らで組織し、日夜汗を流しながら、練習に励んでいます。当U-18の練習については、主に週4日の夜間に行われているため、この時期、高校生の本分である勉学との両立もさることながら、自身の種々研鑽に貴重な時間として有効活用し、大人へのワンステップの大事な時期として過ごしています。

これからも前述のモットーに基づき、個人並びにチーム員の尊重、お互いを理解し、自ずから判断し、決断できるような選手として、かつ人間形成を、選手との距離が大変近い指導者の下、サッカー通じ、共に学び、共に歩み、成長していきたいと考えています。

また公式戦に参加している、関東クラブユース連盟、TFAユースリーグU-18等の大会では2部昇格、上位進出を目指して日々の練習に取り組んでいきたいと思います。

2011年度新規加盟チーム募集

新規チームの登録に関しては、栃木県クラブユース サッカー連盟にお問い合わせ願います。

http://web.mac.com/clubyouth_tochigi/

第9回全国シニア(O-50)関東予選

第9回全国シニア(50歳以上)サッカー大会の関東予選が4月25日(日)山梨県昭和町押原公園サッカー場で開催され栃木県代表として下都賀シニアSCが出場したが全国出場は成らなかった。結果は次のとおりであった。

1回戦 下都賀シニア 0-4 NTTシニア

日本マスターズ2010関東予選

日本マスターズ2010サッカー競技関東予選会が山梨県昭和町押原公園サッカー場で開催された。栃木県代表として栃木EIKOHが出場したが全国出場は成らなかった。結果は次のとおりであった。

1回戦 栃木EIKOH 1-3 ドリーム水戸シニア

第39回関東四十雀サッカー選手権大会

第39回関東四十雀サッカー選手権大会が埼玉県熊谷スポーツ文化公園で開催された。栃木県代表として0-40代表として矢板クラブ0-50の代表として栃木EIKOHが出場した。結果は次のとおりであった。「Over40〕

矢板クラブ 1-3 FC東毛40 (群馬)

矢板クラブ 0-2 日川ジーニアス (山梨)

[Over50]

栃木EIKOH 1-4 FC東毛50 (群馬)

栃木EIKOH 1-3 峡東シニア (山梨)

ねんりんピック石川2010サッカー交流会

ねんりんピック石川2010サッカー交流会が石川県 七尾市で開催された。栃木県代表として栃木大昭SC が出場した。結果は3位であった。

【Mブロック】

栃木大昭SC 0-2 兵庫県シニア選抜(兵庫)

栃木大昭SC 1-0 高知選抜チーム(高知)

栃木大昭SC 0-0 鹿児島元老FC (鹿児島)

第23回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレクとやま」

第23回全国スポーツ・レクリエーション祭「スポレクとやま2010」壮年サッカー大会が富山県総合運動公園で開催された。栃木県代表として下都賀シニアSCが出場した。結果はFグループ2位であった。

下都賀シニアSC 3-1 八戸ゼブラ (青森)

下都賀シニアSC 1-0 倉吉三四郎FC(鳥取)

下都賀シニアSC 1-2 宮崎県シニア (宮崎)

下都賀シニアSC 4-0 バーズ (新潟)

第11回全国シニア(0-60)関東予選

第11回全国シニア (60歳以上) サッカー大会の関東予選が12月4日 (土) ・5日 (日) に千葉県市原市スポレクパークでおこなわれ。

栃木代表は栃木大昭SCが参加したが結果は次のとおりとなって、残念ながら全国出場はならなかった。 B組

栃木大昭SC 1-2 群馬県

栃木大昭SC 0-1 埼玉県

栃木大昭SC 1-3 東京都

第4回関東シニア選手権(O-40)大会

第4回関東シニア選手権(40歳以上)大会が12月4日(土)・5日(日)に千葉県市原市スポレクパークでおこなわれ。

栃木代表は栃木教員マスターズが参加したが結果 は次のとおりであった。

B組

栃木教員マスターズ 0-5 渋谷区ミドル40(東京) 栃木教員マスターズ 1-1 山梨マスターズ (山梨) 栃木教員マスターズ 0-2 BonDeBola (神奈川)

第5回関東シニア選手権(O-60)大会

第5回関東シニア選手権(60歳以上)大会が12月 4日(土)・5日(日)に栃木県宇都宮市栃木県総 合運動公園でおこなわれた。

栃木代表は栃木大昭SCが参加した結果は次のとおりであった。

A組

栃木大昭SC 1-0 四十雀クラブ東京60 栃木大昭SC 0-5 埼玉シニア60

3位決定戦

栃木大昭SC 0-3 千葉0-60選抜

追伸 栃木県開催であったため県シニア委員会・県 内シニアチームの協力で大会運営が無事終了でき たことを感謝してお礼申し上げます。

県内シニア大会等の状況

現在シニア委員会として下記の県内の大会を開催しています。シニア登録をして各種大会に参加をして頂けるようとシニア委員会としてお待ちしています。

- ・栃木県シニアサッカー大会(0-40・0-50)
- 栃木県シニアサッカーリーグ(0-40・0-50)
- ・栃木県シニア選手権大会 (0-40・0-50)
- ・栃木県シニアフレンドリーマッチ (0-35~0-40)
- ・Over60については県内で1チームのため県外のチームとの交流戦等を行っている。

〔シニア委員長 福田 治〕



とちぎキッズアカデミー

キッズ委員会委員長 金井 理

栃木県では、JFAのキッズエリートプログラムに参加して2年目を迎えました。昨年は、宇河地区、芳賀地区、塩谷地区での開催でしたが、今年度は、さらに下都賀地区、上都賀南地区、塩南地区が開催する運びとなりました。また、今年は、関東のジョイントミーティングも栃木県で開催され大きな進歩を遂げました。

そこで、関東JM、各地区の取り組みの中で、下都賀地区の様子を紹介したいと思います。

M5関東JMin栃木開催

9月4日(土)5日(日)の2日間にわたり関東キッズエリートジョイントミーティングを県北体育館、大田原グリーンパークを会場として開催しました。

栃木県は、キッズエリートプログラムに参加して 2年目とまだ日も浅く、関東の皆様を集めてのJM が果たしてできるのかという懸念もありました。し かしながら、キッズ委員会ではこの機会をチャンス ととらえ栃木県の今後の発展のために関東の皆様の お力を借りて、県内の指導者のレベルアップや保護 者の方々への浸透を図ろうと考えました。



(副委員長稲垣氏による開会挨拶)

栃木県からは、協会長の石崎氏、理事の橋本氏をはじめ、県少年サッカー連盟会長の高瀬氏、県技術委員長の菅谷氏、ユースダイレクターの川上氏も参加していただき県としても大きな行事としてとらえていただきました。キッズ委員会からは15名、関東各都県から11名、また一般公募で集まっていただいた30名の方々が参加しました。JFAからは、PHQの坪内氏、技術委員会キッズプロジェクトリーダーの中山氏、また講師として、コーディネーショントレーニングの権威でもある徳島大学の荒木先生をお

招きし、充実した2日間を送ることができました。



(指導案作成の様子)

1日目は、ミーティング主体で各県のキッズエリートの実情やJFAとの話し合いが行われました。また、荒木先生の講義をもとに2日目に行われる指導実践に向けて、県内の指導者と関東から集まっていただいた指導者が入り混じって、U-7, U-8, U-9のグループに分かれ、指導案作成が行われました。「ボールを運ぶ」をテーマにどのグループも子ども達のためになにができるか真剣に話し合いが行われ終了しました。

夜の懇親会でも、話題は子ども達のサッカーに関することが主で、有意義な情報交換ができました。

2日目は、北那須地区のU-7、U-8、U-9 の子ども達70名が参加し、それぞれのパートに分かれて指導実践が行われました。



子ども達が集まる前から、指導者が集まり指導実践のシュミレーションを行い、入念な準備が行われました。指導実践では、子ども達の笑顔や歓声が入り混じり大変活気のある活動が行われました。指導者の皆さんの子ども達を励ます言葉かけ、上手にほめながら子ども達を載せていく姿はさすが、関東から集まった指導者たちだと感心させられました。

また、指導の合間には、保護者向けに少年連盟会長の高瀬氏、JFAから中山氏、坪内氏がJFAが進めるキッズエリートプログラムについての意義や重要性を話していただきました。保護者の方々も真剣に聞



いていてこの活動の意義を十分に理解していただいたと思います。



(JFA中山氏による指導講評)

この指導実践には、県内から一般募集で集まっていただいた指導者にも参観していただきキッズ年代の指導について観察したりメモをとったりしながら真剣に見ていました。このような前向きな指導者がたくさん出てきてくれることは大変嬉しいことだと思います。

実践後は、JFA技術委員会の中山氏からの指導講評をいただき、良かったところや改善点などが示され、指導者として大変勉強になりました。午後は、荒木先生による指導者向けに実技指導がありました。キッズ年代に今とても重要視されているコーディネーショントレーニングについてユーモアのある指導実践していただきました。全国で活躍されている荒木先生の講義を間近で体験でき、大変勉強になりました。参加していただいた関東の皆様からもとても良いミーティングだったとおほめの言葉を多くいただきました。



(荒木先生による指導者向け講習会)

この2日間は、栃木県のキッズエリートプログラムを進めていく中で大変参考になりました。関東でもトップで活躍されている方々と指導案作成から指導実践、反省会、指導講評までの一連の流れに関わったことや子供への声のかけ方、関わり方などキッズに関わる指導者として大変勉強になりました。関

東の皆様の真剣な取り組みに触れることで私を含め 参加した栃木県の指導者の方々に大きな財産を残し てくれたことと思います。

しかし、開催して終わったということではなくこれにかかわった指導者がそれぞれの地区やチームで中心となり、どう生かしていくかということが大切だと思います。一人一人の指導者の頑張りが栃木県のサッカーの底上げをし栃木のサッカーを盛り上げていく大切な役割を担っているのではないでしょうか。

最後になりますが、関東JM開催にあたり北那 須地区理事の三好氏をはじめ、北那須少年サッカー 連盟の方々や大田原市サッカー協会の方々には、 グランド確保をはじめ準備から運営、後片付けま でお手伝いいただきありがとうございました。皆 様のご協力があってのたまものだと大変感謝して おります。

種別を超えた連携 ~キッズアカデミーU-9 in 下都賀~

下都賀地区では、少年連盟地区理事の山中氏を中心としてU-9の子ども達の参加募集をしたところ、約90名の子供たちが参加しました。



この地区は、ユースダイレクターの川上先生が 自らキッズインストラクターの資格を取得し、勤 務先の小山南高校の高校生も指導に参加するとい う、栃木県としては種別を超えた関わりが持てた 画期的な姿でもあります。参加した子供たちは、 高校生のお兄さんたちと楽しそうにトレーニング をしていました。

ミニゲームでは、高校生も一緒に入りプレーを していました。子どもたちにとっては、身近なお 手本がすぐそばにある状態で「見て学ぶ」という、 よい刺激あったと思います。

このような環境を多くの地区で作るためには、 種別を超えた指導者同士の交流が不可欠です。栃 木県の選手の底上げのためにも指導者のオープン マインドが大切ではないでしょうか。



町田新会長 就任のごあいさつ

栃木県女子サッカー発展に御支援を

栃木県女子サッカー連盟会長 町田文男

日頃より多大なるご支援を賜 わり、深く感謝申し上げます。 前会長・森山真弓栃木県サッカ 一協会長の退任に伴い、不肖私 が9月30日に開催されました栃 木県女子サッカー連盟理事会に おきまして、満場一致で会長に 推挙されました。



若干歴史を振り返ると、栃木

県女子サッカー連盟は1981年に発足し、翌年82年に全日本・関東地区予選を兼ねた第1回栃木県女子サッカー選手権大会が4チーム参加のもと、森山会長を迎えて開催され、陽南中が初代王者に就きました。以来、中学生を軸として、次第に小学生、高校生、さらにママさんの部まで広がり、各種大会が開かれるようになりました。2005年にはホテルニューイタヤで関東の連盟役員を迎えて、創立25周年記念式典の祝賀行事も実施しております。

また、本県からは、現在、ドイツ女子1部リーグで活躍中の安藤梢選手や、2010中国・広州アジア大会の初優勝メンバーでLリーグ・東京電力マリーゼに所属している鮫島彩選手らを輩出しました。彼女たちは来年、ドイツで開催される女子W杯では、日本代表としての活躍が期待されています。

一方、残念なことに、連盟発足当時、故矢口栄宏先生が 中心になり、熱心に指導された中学校チームが、現在、消滅しています。キッズ年代からサッカーに"興味を持ち"

"夢を実現する"、そんな選手を育てる環境づくりを進めていくことが急務です。選手層を拡大し、実戦練習を増やし、対外試合を重ねて、強化を図ることが当連盟の発展に通じるものと信じています。

今後とも栃木県サッカー協会のご指導と、一層のご支援 を頂きまして、井上知佐子理事長とする役員皆様の協力の もと、微力ながら当連盟発展に寄与したいと考えていま す。何卒、よろしくお願いします。

宇都宮文星女子高、2年連続全国へ

高校女子サッカー界において、最も権威のある第19回全国女子選手権大会(7月24~31日・静岡県磐田市)に、宇都宮文星女子高が昨年に引き続き出場を果たしました。通算4度目の出場で、全国では惜しくも初戦で敗れましたが、堂々の戦いを展開しました。チームを指揮した鈴木秀明監督に全国大会を振り返ってもらいました。

昨年は、関東代表 7 チーム中 7 位での出場で、全国大会 出場を決めた段階で選手たちはある程度満足感を抱いてし まいました。その結果、全国でもその気持ちがプレーに出 てしまい、大差で初戦敗退となってしまいました。

しかし今年は関東5位に食い込んでの全国大会出場。 昨年の大会を経験した選手も多く、「全国で勝つ」とい うモチベーションを持っての出場となりました。

初戦の相手は広島文教女子大附属高と対戦しました。 選手たちが個々の役割をしっかり果たしながらプレーを したので、狙い通りの試合展開に持ち込めました。しか し決定的場面でゴールを決められず、0-1で負けてし まいました。ただ昨年と比較すると、今年は選手たちが 全力を出し切っての敗退でもあり、次なるステップへの 課題も得ることができました。収穫は大きい大会でし た。チームは「来年こそ全国で勝つ」という目標を、明 確に持つことができました。

来年は、「関東でベスト4、そして3年連続全国大会を果たし勝利を挙げる」ということを目標に頑張っていくことになります。これまでは「全国で負けて得たこと」を糧に成長してきましたが、来年は勝って何かを得られるような試合をしたいですね。



▲宇都宮文星女子高の選手たち

藤本選手がジェフレディース入団

宇都宮文星女子高のストッパー、ボランチなどとして活躍した、藤本文選手(18)が、Lリーグ1部「なでしこリーグ」のジェフユナイテッド市原・千葉レディースへ入団することが決まりました。大学や短大のチームを経由せず、県内高校卒業後、"ダイレクト"でLリーガーとなるのは、本県では8年ぶりの快挙。高校卒業を前に藤本選手に抱負を語ってもらいました。

Lリーガーは小学生からの夢。 入団が決まってとてもうれしかっ たです。両親も喜んでくれまし た。自分の長所でもある「ロング キック」や「1対1の対応」など が、チームから評価されたのだと 思います。

ジェフは、選手のブログなどを見ると、すごく雰囲気の良いチー

ムに感じます。ジェフでは、まず1年目からレギュラー として試合に出て、将来は日本代表に選ばれるような選 手になれるよう頑張りたいです。

《プロフィール》ふじもと・あや 上河内東小で小学4年からサッカーを始める。中学時代は上河内中サッカー部で練習を重ねながら、女子チーム・河内SCジュベニールの選手としても活躍。1992年8月20日生まれの18歳。



第1回関東女子フットサルリーグ

Amaralo/峰FC 3位に食い込む

2年間のプレ大会を経て、本年度から正式開催となった第1回関東女子リーグ(6~12月、関東各都県)。本県からはAmaralo/峰FCが出場し、通算成績5勝1分3敗で3位に食い込む健闘を見せました。また同チームの坂本昌美選手が11得点で、初代リーグ得点王に輝きました。チームを牽引した宮川亮子主将にリーグを振り返ってもらいました。

第1回リーグで3位、納得はできる結果ですが、引き分けた1試合を勝利に結び付けられれば、「2位までは行けたかな」という思いもあります。

過去2年のプレリーグとは違い、長丁場のリーグ戦で、 1日2試合という日もありました。選手全員を出して戦わなくてはいけない試合もあり、そういう中で若い選手たちが試合経験を詰めたというのは収穫でした。また、坂本選手の得点王は、彼女の決定力の高さを証明する結果だったと思います。

来シーズンに向けては、「個の強化」をテーマにして練習に取り組んでいます。上位チームが届かない場所にいる訳ではないので、1人1人が戦えるチーム作りをして、今シーズン以上の順位に食い込みたいと思っています。



▲ Amaralo/峰FCの選手たち

第6回全日本大学フットサル大会

国際医療福祉大マジカオ、関東へ

これまで県予選がなく、関東への道が閉ざされていた全日本大学大会。そこで本年度初めて県予選を開催し、国際医療福祉大FC majikaoが宇都宮大AdelanteFCを下し、初代代表として関東大会(7月18日、茨城県常総市)へ出場しました。関東大会では、初戦で山梨大に4-6と敗れましたが、本県代表の名に恥じない好ゲームを展開しました。主将の三橋拓選手に関東大会を振り返ってもらいました。

県予選は、前年の栃木県リーグで敗れているAdelanteFCと対戦しましたが、「もう負けられない」という選手たちの気持ちが全面に出て、2戦2勝で関東大会出場を果たすことができました。

関東大会では、初の「県外公式戦」ということもあり、 落ち着かない雰囲気の中で試合に入ってしまいました。立 ち上がりが悪く、攻撃力が売りの自分たちの試合展開に持 ち込めず失点を重ねてしまいました。

対戦相手の山梨大は体育会系サッカー部。敗れてはし

まいましたが、自分たちの試合展開にうまく持ち込めれば 勝てた試合でもありました。来年も関東大会へ出場し、今 度は勝利を収めたいです。



▲国際医療福祉大FC majikaoの選手たち

《メモ》出場にはフットサル選手登録が必要。現在、神戸大が全国 3 連覇中。関東大会へは、大学内のフットサル同好会や体育会系サッカー部などが出場している。

第1回全日本女子ユース(U-15)大会 **泉が丘中が初代本県代表に**

本年度から始まった全日本女子ユース大会。本県からは、栃木県女子フットサルリーグに参戦する泉が丘中が初代代表として関東大会(11月6日~12月12日、東京都内)に出場しました。1回戦では、東京第1代表の十文字中と対戦し0-18で敗れましたが、本県フットサル界に新たな1ページを刻みました。主将の小野美沙菜さんに大会を振り返ってもらいました。

県予選が行えず、推薦出場という形での参加となり、 不安の多い中での参加でした。大会ではその不安が的中、 1回戦の十文字中との試合では、立ち上がり固くなって いたところで連続して点を取られてしまいました。その 後も個人技、チーム力ともに大きな差を見せつけられ、 一矢報いることができず、大差で敗れてしまいました。

非常に悔しい結果に終わってしまいましたが、同年代のチームと戦えたことは、私たちに大きな目標を与えてくれました。また機会が巡ってきたときには恥ずかしくない試合ができるよう、努力していきたいです。



▲泉が丘中の選手たち

《メモ》出場にはフットサル選手登録が必要。今回の関東大会ではジェフ市原・千葉レディースが優勝。関東大会にはクラブチーム、中学校チーム、 Jリーグ下部組織、県選抜チームなどさまざまな形態のチームが出場している。



全日本少年サッカー大会に参加して

国井 黥

私は7月31日から8月7日まで、福島県Jヴィレッジ、国立西が丘サッカー場で行われた第34回全日本少年サッカー大会にユース審判員として参加してきま判員として参加してきま判員として表れての場外で、そのうえ全国で、お話をいたで、お話をいたで、お話をいただいた時には「自分が栃木の代表で大丈夫なのか」と思いました。



今回の大会には、ユース審判員(若い3級または2級審判員)が47都道府県から57名、35歳以上の2級審判員が9名、女子1級審判員が3名参加しています。また、全国各地域やJFAからインストラクターの方が来てくださって毎日、毎試合ごとにご指導をいただきました。

初日の7月31日には体力測定やルールテスト等が行われ、2日目から始まるグループ予選に備えました。8月1日~4日のJヴィレッジラウンドでは30度を超える気候の中、選手たちが元気よく、そして小学生とは思えない高いレベルのプレーを見せていました。なお、私はJヴィレッジでの5日間で主審2試合、副審3試合、統第4の審判員2試合の計7試合を担当し、毎試合選手たちが気持ち良くプレーできるような試合をつくりたいきるような試合では、緊張で固くなっていましたが、同じることができました。その後の残り6試合では緊張することがなく、冷静なジャッジができたと感じています。

8月4日。Jヴィレッジラウンドが終了する朝のモーニングトレーニングで準決勝と決勝が行われる西が丘ラウンドを担当する12人が発表されました。この12人は、57人のユース審判から予選でのパフォーマンスを見たインストラクターによって選考され、その中の1人に私が選ばれました。まさか自分が選ばれるとは思ってもいなかったため、驚きが隠せませんでした。そしてJヴィレッジラウンドで共に頑張った仲間から激励を受け、今回参加した審判員の方々の代表として恥ずかしくないように頑張りたいと感じました。

8月5日。この日私は今大会で一番嬉しい思いをしました。この日、東京に移動してJFAハウスを訪問し、見学をした後に松崎審判委員長の研修が行われました。その際に準決勝と決勝の割当が発表され、私は決勝の副審を担当することになりました。8月6日にはW杯で活躍した西村雄一氏が私たちを激励に来てくれるサプライズもあり、いい状態で決勝に臨めました。8月7日の決勝当日、高円宮妃殿下をはじめ、2920人もの人が観戦に来ていました。こんなに観客が入った試合を担当するのは初めてでしたが、審判4人のチームワークで好ゲームとなったこの試合を無事に終了することができました。

今回、全日本少年サッカー大会に参加して、またとな

い多くの経験ができました。この経験を今後の審判人生に活かしていきたいと思います。そして最後に、普段から私に関わっていただいている全ての方々に感謝したいと思います。

審判委員会から(副委員長の独り言)

審判委員会副委員長 羽石 剛

ワールドカップが開催された2010年。日本代表が前評判を覆す結果を残し、日本中が一喜一憂したことと思いますが、わが栃木県の国際副審である相樂亨氏が南アフリカの地で西村雄一氏とともに大活躍だったことも栃木県サッカー協会にとって非常に喜ばしいことだったと思います。

さて、みなさんご存知のとおり、日本サッカー協会の審判登録制度は、サッカー、フットサルとも4級から始まり、3級、2級、1級へと昇級していくシステムとなっておりますが、現在日本全体での審判員の登録人数はサッカーが約19万人、フットサルが約2万人となっています。

現在の栃木県の登録人数は表1のとおりです。

1級審判員は、今回W杯で活躍した相楽亨氏、Jリーグの主審担当である高山啓義氏、同じくJリーグ副審担当である手塚洋氏と3人が登録しております。

2級審判員は44名、3級審判員は382名とここ数年2級、3級とも横ばいの状態です。審判員としてスタートとなる4級審判員は4,707名となっています。

フットサル1級審判員は、現在栃木県にはおりません。 2級審判員が8名、3級審判員が33人、4級審判員が713 名となっています。

この人数が多いか少ないかの判断は難しいかもしれません。ただ、どの連盟でも公式戦における審判の確保には苦慮していると思われます。

登録審判員の活動を支える組織として、我々審判委員会は、県協会の一組織として、社会人、高校、中学、少年、クラブユース、女子、大学、シニア、フットサルの各連盟から選出された委員および学識経験の委員34名で構成しております。

なお、委員会には、村上修委員長のもと、総務部、指導部、登録部、競技部、広報部、インストラクター部、フットサル部、シニア部、クラブユース部の機関があり、この各部長と各連盟委員長および委員長、副委員長16名で企画委員会を組織し、毎月1回を目安に会議を開催しております。

ここで各部の主な活動および部長(所属)を紹介したい と思います。

〈総務部〉(羽石 剛部長:社会人連盟)

予算管理、会議の設定、協会との連絡調整等の庶務を行っております。

〈指導部〉(金子英二部長:社会人連盟)

審判員の強化研修、3級審判資格昇格試験、4級審 判資格取得講習会をメインに、審判員の指導育成及び 強化、若手審判員の発掘に取り組んでおります。

〈登録部〉 (勝井英之部長:少年連盟)

審判員の新規登録、更新、移籍等キックオフによる 登録管理に関する業務を行っております。



〈競技部〉(菅野仁和部長:社会人連盟)

県協会より依頼を受けた各種大会への審判派遣を行っております。なお、今年度は年間541試合、延1,277人を派遣しております。(平成22年4月から11末までの数字)

〈広報部〉 (小口勝信部長:学識経験)

「サッカー栃木」の発行等広報に関する業務を行っております。

〈インストラクタ一部〉 (鈴木武明部長:高校連盟)

審判員の指導を行う審判アセッサー (インストラクター) を強化審判中心に派遣、指導し、また研修会の企画、運営を行っております。

〈フットサル部〉 (栃木伸元部長:学識経験)

フットサル審判員の指導・育成強化を目的に、4級 審判取得講習会、3級審判昇格審査会、更新講習会の 事業を行っております。

〈シニア部〉 (石川栄壽部長:シニア連盟)

シニア連盟における審判指導、研修会等を行っております。

〈クラブユース部〉 (添田 博部長:クラブユース連盟)

クラブユース連盟における審判指導、研修会等を行っております。

それぞれ普段は自分の仕事を持っている委員ばかりですので、連絡等は仕事が終わった後や休日にすることとなり、審判員の方々に委員会の事業内容の周知が行き届かないことがあるかと思います。

委員会の事業については、ホームページへの掲載、また各連盟審判委員会への連絡にてお知らせしていきますので、情報収集のご協力をお願いいたします。

また、審判関係で不明なこと、特に登録関係で不明な 点がある場合は、早めに県協会へ連絡をいただければと 思います。

この原稿が発行される頃には、平成22年度に1級審判昇格試験に挑戦していた社会人連盟の関谷宣貴氏の結果も出ているかと思います。合格となれば、県内から相楽氏以来久々の1級審判員の誕生となります。

栃木県から次々に上級審判が誕生するよう審判委員会 としてもさらに事業強化を図って行きたいと考えており ますので、皆様のご協力をお願いします。

最後に、審判委員会から審判員の皆様にいくつかお願いをさせていただきます。

① 審判の資格更新に注意を!

日本協会による一括登録システム「kickoff」が導入されて5年が経過し、手続きについても審判員の方々に定着してきたかと思います。

審判資格は、年度ごとの切り替えとなります。翌年度も審判活動を続ける場合は、「kickoff」で更講講習の申込み(受講料支払い)をしていただき、講習を受講して更新が完了となります。

講習は、サッカー、フットサルとも4級は「会場講習」「JFAラーニング」のどちらかを受講する必要があります。会場講習はサッカー4級、フットサル4級とも10月ごろから始まり12月までの間に県内数箇所の会場を設定して行っております。

「JFAラーニング」は、2月末までとなっており、会場講習を受けられなかった場合はこの講習を受講しないと更新できなくなりますのでご注意ください。

サッカー、フットサルとも2,3級更新講習は、会場講習の受講のみとなります。

なお、会場講習の日程は、決まり次第キックオフおよび県協会ホームページへ掲載しますので、時期が来ましたら確認をお願いいたします。

② 審判証に写真を!

更新した場合は翌年度4月までに、新規で取得した場合は受講した講習会の日から1カ月程度で日本協会から審判証が届くと思います。届きましたら、必ず写真を貼り付けてください。

毎年、会場講習の際に本人確認のため審判員証の提示をお願いしておりますが、写真の貼られていない方が見受けられます。選手が選手証で確認をするよう、審判も審判証で確認をする場合がありますので、写真の貼り付けをお願いいたします。

③ 審判物品が届かないときには連絡を!

更新した審判員の方には、審判証が4月までに、新版ルールブックが8月までに日本協会から、届くと思います。新規で取得した方には、審判証・審判ワッペン等が受講した講習会の日から1ヵ月程度で、日本協会から届くと思います。

万が一、届かない場合は早めに協会へ連絡をお願いいたします。

なお、引越し等で住所が変わった場合は、早めに「kick off」の住所変更をするようお願いいたします。

④ 派遣審判員として協力を!

前の方でも触れましたが、大会における審判員の確保 はどの連盟でも苦慮しており、特に派遣審判として協力 いただける審判員がサッカー、フットサルともにまだま だ足りない状況です。

審判は大変というイメージがあるかもしれませんが、 反面やりがいがあると思います。

審判をやってみたい方あるいは上級を目指したいという 方がいらっしゃいましたら、是非協会に連絡していただく か、各連盟の審判関係者にお話いただければと思います。

我々審判委員会がバックアップいたしますので、是非 協力をお願いいたします。

栃木県登録審判員数(人)

伽小宗豆球鱼+	引貝奴 (人	.)
	サッカー	フットサル
1級	3	_
2級	44	8
3級(一般)	380	33
(U-18)	2	_
4級(一般)	4, 470	707
(U-18)	215	6
(∪-15)	22	_
計	5, 136	754

(平成22年11月末現在)

栃木県審判指導員

(インストラクター)数(人)

	サッカー	フットサル
S級	1	_
1級	_	2
2級	3	_
3級	14	_

(平成22年11月末現在)



第65回国民体育大会 関東ブロック大会 サッカー競技開催

平成22年度開催される「ゆめ半島 千葉国体」の 出場権をかけて、2010年8月14日~18日までの5 日間、第65回国民体育大会関東ブロック大会サッ カー競技が、群馬県立敷島公園 他で行われた。

昨年度末から今年度始めにかけて、度重なるセレクションにより選び抜かれた本県の代表選手たちは、本県の代表という誇りを胸に、強豪が揃う関東地区の他都県の代表チームと死闘をくりひろげた。

どの種別もほぼ互角の戦いを展開するも、あと 一歩及ばず、全種別国民体育大会本大会への出場 を逃してしまった。

特に、第64回国民体育大会において第3位に入 賞した期待の成年男子は、延長戦の末、東京都に 惜敗を喫し、二年連続の国民体育大会本大会入賞 の夢は途絶えてしまった。

各都県の競技レベルが非常に高く、過密日程の中で行われるこの関東ブロック大会は、どの種別も「関東の高い壁」を乗り越えるべく戦っている。

来年度の戦いに注目し、ぜひとも関東ブロック大会を突破し、山口県において開催される「おいでませ!山口国体」の出場権を獲得してもらいたいと思う。



関東ブロック大会で戦う選手たち(緑色のユニフォームが栃木県)

各種別のスタッフ一覧

成年男子

監督 浅野 博孝(県立聾学校)

コーチ 山田 徹(宇都宮市立宝木小学校)

コーチ 菱沼 大輔(栃木県サッカー協会)

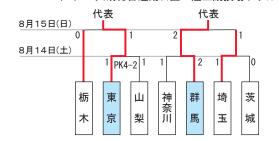
コーチ 福田 智保(県立益子芳星高等学校)

トレーナー 曽村 岳史 (ヴェルフェたかはら那須)

組み合わせ

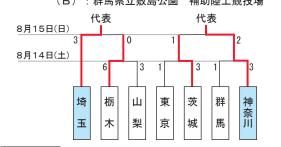
成年男子

会場 (C):宮城総合運動場 陸上競技場・サッカー場 (D):大胡総合運動公園 陸上競技場サッカー場



女 子

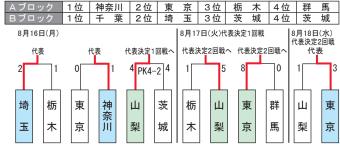
会場 (A) : 群馬県立敷島公園 サッカーラグビー場 (B) : 群馬県立敷島公園 補助陸上競技場



少年男子

会場 (A):群馬県立敷島公園 サッカーラグビー場 (B):群馬県立敷島公園 補助陸上競技場

U-16リーグ結果



※[]はマッチナンバー

女 子

監督 鈴木 秀明(宇都宮文星女子高等学校)

コーチ 鈴木 清治 (栃木県サッカー協会)

コーチ 藤田 美好(県立小山城南高等学校)

コーチ 染川 哲範(栃木県サッカー協会)

少年男子

監督 大牧 稔 (県立高根沢高等学校)

コーチ 槇 剛(県立栃木高等学校)

コーチ 仲江川 勉 (県立壬生高等学校)

コーチ 石田 浩行 (ヴェルディ小山SS) GKコーチ 川中子 光 (矢板中央高等学校)

トレーナー 北島 博(高瀬整形外科)



試合終了後の女子チーム(左)と少年男子チームの集合写真(右)



平成22年度 中央トレセン実施

技術委員会では、通年でU-12、U-13を対象に中央トレセンを実施し、早期からの選手育成に力を注いでいる。

U-12対象の中央トレセンは、2010年7月10日~11日の1泊2日で壬生総合運動公園サッカー場にて実施された。ここでは、元Jリーガーである井手口純氏(ZONOサッカースクール所属)を招聘し、パス&コントロールをテーマにトレーニングを実施した。選手たちは、照りつける太陽の下、真剣にトレーニングを重ね、トレーニング終盤には、目に見えて上達の兆しがうかがえた。

U-13対象の中央トレセンは、2010年9月10日~12日の2泊3日で今市青少年スポーツセンターにて実施され、横浜Fマリノスユロスのコーチである福富信也氏を招聘し、ロジカルシンキングやコミュニケーションスキルをテーマにトレーニングを実施した。また、U-13では、エアロビクストレーニングやまを使ったアクティビティーなども実施した。普段あまり経験できない内容に、選手たちにとって非常に身になるものとなった。

技術委員会では、今後もこのようなトレセン活動を推進し、世界に通用する選手の育成に向けて取り組んでいく計画である。



中央トレセンU-13ロジカルシンキングのトレーニング



講師の話に真剣に耳を傾ける選手たち



ウォーミングアップでのアイスブレイクの様子

指導者養成事業

技術委員会では、指導者養成事業として、多くの 講習会や研修会を開催し、有能な指導者の養成に 努めている。

<栃木県内で開催している主な講習会や研修会>

- ・公認C級コーチ養成講習会
- ・公認D級コーチ養成講習会
- ・公認C級コーチリフレッシュ研修会
- ・公認D級コーチリフレッシュ研修会
- 栃木フットボールカンファレンス
- ・公認A級コーチジェネラル養成講習会 栃木トラ イアル
- ・公認B級コーチ養成講習会受講者選考会



2010公認C級コーチ 養成講習会参加者

* 指導者資格に関する情報は、社団法人栃木県サッカー協会ホームページ技術強化委員会をご覧ください。



平成22年度 財団法人栃木県体育協会スポーツ顕彰受賞者

スポーツ功労賞	池田 舜一	社団法人栃木県サッカー協会顧問	栃木県サッカー協会において、1977年から理事として全国に先駆けて医事委員会を立ち上げ小・中・高・社会人に至るまで幅広く、選手や指導者に講習会等をとおし健康管理や負傷防止の指導に大きな力を注がれ、現在も顧問として引き続き指導に力を注いでいる。
スポーツ優秀選手賞 特別賞	水沼 宏太	栃木SC	U-21 日本代表として、2010年アジア 競技大会に出場し、チームに貢献、優勝 を収めた。
	富山 貴光	矢板中央高校 → 早稲田大学	U-21 日本代表として、2010年アジア 競技大会に出場し、チームに貢献、優勝 を収めた。
	鮫島 彩	河内ジュベニール → 常磐木学園高校 → 東京電力女子サッカー部マリーゼ	日本代表(なでしこジャパン)として、 2010年アジア競技大会に出場し、チームに貢献、優勝を収めた。

平成22年度 (社)栃木県サッカー協会賛助会員ご芳名(敬称略)

奥澤 直人

檜山 達夫

(株) 神山商店

滝の原サッカーOB会

川上 栄二

鹿沼フットボールクラブOB会

真岡SCアーギアOB会

小山南高校サッカー部

石崎 忠利

泉FC宇都宮

宇都宮大学サッカー部OB会

シノザキスポーツ

(株) 竹石ビル

安達 賢二

ユー福祉タクシー

根岸 誠一

岩原 克彦

北山 亮

FCスポルト宇都宮

宇東高サッカー部親の会

宇都宮北高サッカー部OB会

FCブロケード

栃木信用金庫

加藤 一男

河内SCジュベニール

FC西那須21槻沢保護者会

小林 剛

FCイーストキヨハラ

円印刷株式会社

小山城南中学校サッカー部

セレソン宇都宮SC

東那須野サッカースポーツ少年団

天満屋 庄三

大内中学校サッカー部 保護者会

FC西那須21アストロ

小池 一規

大谷東FC 父母会

宇都宮サッカー協会

菊地 好美

佐野日大高校サッカー部保護者会

オフィシャルサプライヤー ミズノ株式会社

